



ダムニュース

[法人名] 一般財団法人ダム技術センター
[郵便番号] 〒110-0008
[住所] 東京都台東区池之端2-9-7池之端日殖ビル2F
[電話] 03-5815-4161
[FAX] 03-5815-4162
[ウェブサイト] <http://www.jdec.or.jp/>
[電子メール] damnews@jdec.or.jp

この号の内容

- 1 ハッ場ダム打設完了
- 2 “津軽白神湖まつり”を開催
- 3 津軽ダム水源地見学会を実施!
- 4 浅瀬石川ダム
“ダム湖ふれあいデー”を開催
- 5 Dam news 投稿記事募集
- 6 図書販売



ハッ場ダム本体(下流から、R元年6月撮影)

ハッ場ダム打設完了式

国土交通省が群馬県長野原町、東吾妻町にて建設を進めている「ハッ場ダム」について、令和元年6月12日に「打設完了式」を執り行いました。

ハッ場ダムは、利根川水系吾妻川に建設中の多目的ダムです。戦後間もない昭和22年のカスリーン台風による首都圏の大規模被災を契機に水系全体の治水計画改定の中で位置付けられ、調査着手から68年目を迎える今年度末には完成の予定です。来年夏に開催される東京オリンピック・パラリンピックを前に、首都圏の安全・安心の更なる向上という大きな役割を担うハッ場ダムの完成に向けて、関係者一丸となって取り組んでいるところです。

ダム本体工事については、平成26年8月に清水・鉄建・IHI異工種建設工事共同企業体（JV）と契約を締結し、翌27年1月から掘削工に着手、28年6月からコンクリート打設を開始しました。夏冬、昼夜の気温差の大きい、また地形的にも急峻な現場において、一日も早い打設完了を目指し、発注者・受注者一体となって、24時間施工、厳冬期における寒中コンクリート打設、“生産性革命”に沿った新技術の導入などにも積極的に取り組んできました。その成果として、約100万m³に及ぶ堤体積にもかかわらず、打設開始から3年足らずという短期間での完了を実現しました。



▲ハッ場ダム本体（上流から、R元年8月撮影）



▲ハッ場ダム本体（左岸から、R元年6月撮影）

式典は関東地整とJVとの共催で行いました。地元の関係各地区の代表の皆様をはじめ、大澤正明・群馬県知事、上田清司・埼玉県知事、小淵優子・衆議院議員、萩原睦男・長野原町長、中澤恒喜・東吾妻町長および下流一都四県等の関係者、塚原浩一・国土交通省水管理・国土保全局長、工事関係者等約230人にご臨席いただきました。

式辞において石原康弘・関東地方整備局長は、短期間での打設完了を成し遂げた清水・鉄建・IHI異工種建設工事共同企業体をはじめ、工事に関わった全ての企業の技術者および作業員の方々への感謝とともに、「今後は、ダム本体建設工事の完成を目指すとともに、水源地域における生活再建事業や地域振興に向けた取り組みについて、両町、群馬県と連携し、しっかりと取り組んでまいり所存」と述べました。続いて、地元の大澤知事からは「ダムを受け入れた地元の皆様が、これ以上苦しむことがあってはならないとの強い思いで事業再開に取り組んだ。万感胸に迫る。」と、また下流受益地の上田知事からは「上流の多くの皆さんの協力とご支援と尊い犠牲が下流の皆さんたちを救っている。730万人の県民を代表して、上流の皆さんのお気持ちやご苦労されたことを、心を尽くしてこれからも伝えていく。」などと祝辞をいただきました。さらに、小淵衆議院議員、萩原、中澤両町長、ハッ場ダム推進国会議員連盟の佐田玄一郎会長からも祝辞をいただきました。



▲大澤群馬県知事(当時)



▲上田埼玉県知事(当時)



▲小淵衆議院議員



▲萩原長野原町長



▲中澤東吾妻町長

そして、朝田将・ハッ場ダム工事事務所長による工事報告、施工者を代表して山中庸彦・清水建設株式会社代表取締役の挨拶の後、「最終打設」および「くす玉開披」が行われました。



▲打設完了式・くす玉開披



▲コンクリート最終打設

当日は式典に先だって「現場見学会」も開催しました。名勝・吾妻峡の概ね上流端に位置するダムの天端上からは“耶馬溪しのぐ吾妻峡”と謳われる美しい渓谷の全容を一望することができ、新たな観光資源として多くの方々にお越しいただくことが期待されます。



▲現場見学会の様子(左写真の左から、小淵衆議院議員、上田・大澤両知事、萩原・中澤両町長)



本体コンクリートの打設は完了しましたが、まだまだダム建設事業は終わっていません。クレストゲートの設置等の堤体に係る工事とともに、ダム本体と両輪、もっと言うとダム本体以上に大切な地元の生活再建に係る工事は未だ最盛期が続いており、安全対策等に努めながら、「首都圏の心強い用心棒」としての役割を担うハッ場ダムの日も早い完成に向けて取り組んでまいります。

また、ダム完成に伴い新たに生まれるダム湖では水陸両用バス、バンジージャンプなど様々なアトラクションも検討が進められています。長い間ダムと向き合い、振り回されてきた地域の方々が、ダム完成後の新しい未来に向かって汗をかいておられます。ぜひ、元気な“やんば”の地にお越しください。「いまだけ・ここだけ・あなただけ」の現場でお待ちしております。

(関東地方整備局 ハッ場ダム工事事務所)



▲メイン会場ステージ前は多くの観客で賑わっていました！



▲津軽の味覚 直径2メートルの【巨大アップルパイ】



▲【ダム見学ツアー】ダム湖にはり出した通路から、ダムの裏側を間近で見られるのは貴重です！



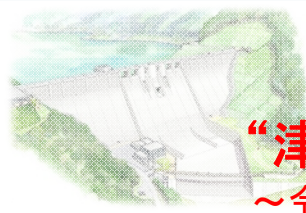
▲【カヌー巡視体験】時間の流れがゆるやかです！



▲津軽ダム資料展示室での“全国ダムカード展”も訪れた観光客の目を楽しませていました。



▲津軽ダムパークを訪れた子供達に村内で採集した“天然クワガタ”を抽選でプレゼントしました。嬉しそうです！



GOOD DESIGN AWARD
2017年度受賞



“津軽白神湖まつり”を開催

～令和元年度 森と湖に親しむ旬間～

令和元年7月21日(日)、国土交通省が管理する一級河川岩木川水系岩木川上流部に位置する“津軽ダム”の立地村である『西目屋村』と『NPO法人岩木川と地域づくりを考える会』の協力のもと“津軽白神湖まつり”が開催されました。

このイベントは、国土交通省及び林野庁が定めている“森と湖に親しむ旬間”の一環として、「森林やダム、河川などの重要性について国民の関心を高め、理解を深めること」を目的に実施しています。

メイン会場の“道の駅『津軽白神』”では、地元獅子舞保存会、保育園児によるステージイベント、ご当地グループ“アルプスおとめ”による防災・減災トークショーなどが行われました。会場では、直径2メートルの“巨大アップルパイ”の販売もされ好評でした。今春リニューアルオープンし更に魅力の深まったメイン会場は、イベント等を楽しむ多くの来場者で賑わっていました。

天候にも恵まれた当日は、“ダム見学ツアー”の会場となった津軽ダムパークでも約500名の来場者がありました。4回実施された見学ツアーは全て募集人数を超える盛況ぶりで、ダムへの関心の高さを窺い知ることができました。また、“カヌー巡視体験”の会場となった美山湖パークでは8回の巡視体験を実施し、家族連れなど86名がダム湖上で過ごす“ゆったりとした休日”を満喫していました。

(東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所)

『津軽白神湖』に向かっての紙飛行機飛ばしです！
遠くまで飛んだかな？



津軽ダムイメージキャラクター
ベッカー君

津軽白神湖
Tsugaru-Shirakami-Lake



▲模型を使ってダムの役割を学習しました！



▲日本一大きいコンジットゲートを見学しました！



▲ダム堤体内部で“水の濁り対策”について勉強しました！



▲水力発電の勉強もしました！タービンも間近で見たよ！



▲ダムの上から“ゲート”について説明をうけています！



▲“水生生物調査”です。川の中で良く頑張ったネ！



国土交通省が管理する一級河川岩木川水系岩木川の上流部に位置する“津軽ダム（青森県中津軽郡西目屋村）”で令和元年7月24日（水）、地元の小学生を対象に『水源地見学会』を実施しました。このイベントは『森と湖に親しむ旬間』の一環として行われ、津軽ダムが完成し本格的に管理に移行してから初めての試みとなります。

約半日のスケジュールの中、『模型を使ったダムの役割実験』や『津軽ダム堤体内部特別見学』、『東北電力津軽発電所の水力発電設備見学』の後、『岩木川の水質調査と水生生物調査』を行いました。中でも児童達に好評だった水生生物調査では、岩木川の水の感触に驚く様子がとても印象的でした。「冷たい！」「もう無理！」「きれい！」などの声が飛び交いながらも、児童達は一生懸命に石をひっくり返し川に棲む虫などを採集していました。参加した西目屋小学校の3・4年生21名は、楽しみながら内容の濃い“水の学習”をしました。

この取組は今後も継続し、隔年でフィールドを津軽ダムと浅瀬石川ダム交互に実施する予定です。来年度は岩木川水系浅瀬石川の上流部に位置する”浅瀬石川ダム（青森県黒石市）”でダムの役割や水の大切さなどを楽しみながら学んでいただきたいと思います。

（東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所）

“森と湖に親しむ旬間”

とは？

国土交通省及び林野庁では、昭和62年度から、国民の皆さんに森林や湖に親しむことにより、心身をリフレッシュしながら、森林やダム等のもっている自然豊かな空間や社会生活にはたしている役割について理解を深めていただくことを目的として、毎年7月21日から7月31日までを「森と湖に親しむ旬間」として定めています。この旬間には、本趣旨に沿って全国の管理ダムを中心に各種行事が行われています。





▲ステージイベントに来場者は熱心に見入っていました。



▲カヌー巡視体験。ゆったりとした時間の流れです！



▲ダム堤体見学ツアーの一コマ。皆、興味津々！



▲リアルな模型を使って、ダムの役割を説明しました。



▲“さかなのつかみどり”です。うまい！



▲“モーターボート巡視体験”は、大盛況でした。

浅瀬石川ダム“ダム湖ふれあいデー”を開催

～令和元年度 森と湖に親しむ旬間～

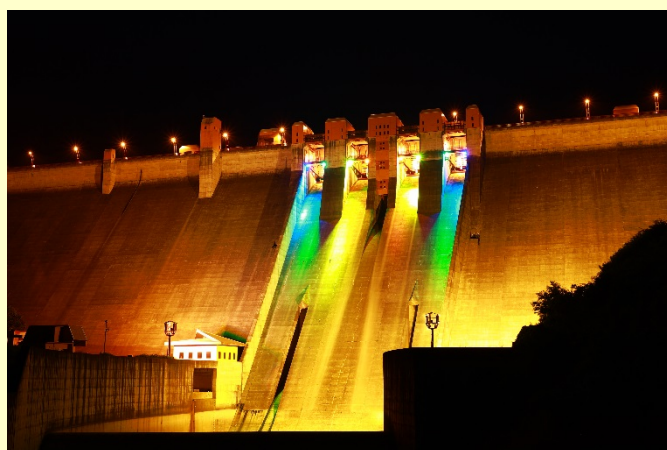
国土交通省が管理する一級河川岩木川水系浅瀬石川上流部に位置する浅瀬石川ダムで、令和元年7月28日(日)『ダム湖ふれあいデー』が開催されました。このイベントは“森と湖に親しむ旬間”の期間に合わせ、毎年開催されています。メイン会場の“浅瀬石川ダム虹の湖公園ふれあい広場”では来場者数が約1,300名にも上り、多くの家族連れなどで賑わいました。

薄雲に覆われ過ごし易い天候の中、来場者は『浅瀬石川ダム見学ツアー』や『カヌー巡視体験』、『モーターボート巡視体験』など普段は味わうことのない貴重な体験を楽しんでいました。ステージイベントでは、『黒石高校チアリーダー部』、『東雲幼稚園』のパフォーマンスや、ご当地グループ『“RINGO MUSUME”』による防災・減災トークショー、『浅瀬石川〇×クイズ』などが行われました。”せせらぎ水路特設プール”で行われた『さかなのつかみどり』は、会場に設けられた各ブースの中でも一番の熱気がありました。参加した子供達は全身びしょ濡れになりながらも無邪気に魚を追い続け、大自然の中で楽しい夏の思い出を作っていました。

また、“森と湖に親しむ旬間”に合わせて『浅瀬石川ダム 夏のライトアップ』も実施されました。レインボーカラーに照らされたダム堤体はとても幻想的で、訪れた観光客は「すごい！」「きれい！」と車を降りると同時に感激している姿がとても印象的でした。

(東北地方整備局 岩木川ダム統合管理事務所)

“森と湖に親しむ旬間”期間中
ライトアップも実施しました



ダム直下の“想い出の橋”からみる浅瀬石川ダムレインボー2019！

浅瀬石川ダムキャラクター
アッチャンとパパ

浅瀬石川ダム竣工30周年

虹の湖
Nirano Lake



Dam news 投稿記事募集

『ダムニュース』編集事務局では、下記のようなあらゆる情報・話題を広く募集しております。

内容等につきましては特に問いませんので、下記を参照の上、積極的にご投稿くださいますようお願い申し上げます。

1. イベントの開催通知・報告（水の週間、サマーカーニバル、花火大会、コンサート等）
2. 小学生等によるダム見学会についての報告（絵・感想文等）
3. ダム所在地等における伝統的な行事の紹介（祭り等）
4. ダム事業に関するPR 活動の紹介（パンフレット、ポスター等）
5. ダム周辺の自然紹介
6. ダム周辺の観光レクリエーション活動の紹介（スポーツ大会等）
7. 研究会・講演会・シンポジウムの開催（通知・報告）
8. 水害・地震等報告
9. ダム資料館・交流館等の紹介

なお、ご不明な点及び執筆にあたっての要領等につきましては、下記担当までご連絡ください。

※ダムニュースの配信先変更や配信停止などのご希望がありましたら、ダムニュース編集事務局までご連絡をお願い致します。

[法人名] 一般財団法人 ダム技術センター『ダムニュース』 編集事務局
[郵便番号] 〒110-0008
[住所] 東京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル2F
[担当者] 企画部 ダムニュース担当
[電話] 03-5815-4161
[FAX] 03-5815-4162
[電子メール] damnews@jdec.or.jp

図 書 販 売

1. ダム技術
・月刊誌 A4 判 12 部/年 年度契約（定期購読申込）
平成31年4 月号（No. 391）～9月号（No. 396） 1,260円（税別・送料込）
10月号（No. 397）～令和2年3月号（No. 402） 1,273円（" "）
2. 多目的ダムの建設 平成17年版（全7巻）
・平成17 年 6 月発行 A4 判 88,200 円（税込・送料別）
3. RCD工法技術の進歩
・平成17 年 12 月発行 A4 判 4,500 円（税込・送料別）
4. ダムの安全管理
・平成18 年 5 月発行 B5 判 2,000 円（税込・送料別）
5. 台形CSG ダム施工・品質管理技術資料
・平成19 年 9 月発行 A4 判 2,000 円（税込・送料別）
6. 地質現象とダム
・平成20 年 6 月発行 A4 判 7,000 円（税込・送料別）
7. 改訂3版 コンクリートダムの細部技術
・平成22 年 8 月発行 A5 判 6,000 円（税込・送料別）
8. ダム工事積算の解説 平成23 年版
・平成23 年 5 月発行 A4 判 1,900 円（税込・送料別）
9. 改訂版 巡航RCD工法施工技術資料
・平成24 年 2 月発行 A4 判 2,000 円（税込・送料別）
10. 台形CSG ダム設計・施工・品質管理技術資料
・平成24 年 6 月発行 A4 判 3,000 円（税込・送料別）
11. ダム基礎における立体的岩盤透水性分布の把握手法
・平成25年 5 月発行 A4 判 5,000 円（税込・送料別）
12. ダム技術Q&Aー総集編ー改訂版 I
・平成27年3月発行 A4判 3,000円（税別・送料別）
13. ダムの地質調査ーボーリング・調査坑・トレンチー
・平成27年3月発行 A4判 6,000円（税込・送料別）
14. ダム工事積算の解説（平成28年度版）
・平成28年5月発行 A4判 2,500円（税込・送料別）

書店では販売をしておりません。

お申込みは、ダム技術センターへ、FAXまたはE-mailをご利用下さい。

申込用紙の形式は定めておりませんが、参考形式が必要な方は、当センターホームページにて、出版物の項目よりPDF形式でダウンロードする事が可能となっております。

[法人名] 一般財団法人 ダム技術センター 図書販売

[郵便番号] 〒110-0008

[住所] 東京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル2F

[担当者] 図書販売担当

[電話] 03-5815-4161

[FAX] 03-5815-4162

[電子メール] books@jdec.or.jp

図書注文書

一般財団法人ダム技術センター図書販売担当宛

FAX (03-5815-4162)

下記のとおり注文します。

No	書籍名	部数
1		
2		
3		

*公/私どちらかに○をお付け下さい。 公→宛名（会社名） 私→宛名（申込者名）となります。		公・（宛名（会社名）） 私・（宛名（申込者名））	
申込者 （ご氏名）	ふりがな		
会社名			
事務所名・ 部署名			
所在地	（〒 - ）		
TEL		FAX	
E-mail			
通信欄			

- ◆ご注文の商品は、3 日～10 日程度でお手元に届きます。
- ◆請求書、納品書、見積書は、商品とは別途郵送にてお届けいたします。（到着日は、商品と1 日程度誤差あり）
- ◆代金お支払いについて、郵便振替時の手数料は当センターが負担いたします。なお、銀行振込でお支払いされる場合には、お手数ですがお振込日・お取扱銀行・請求書番号(請求書右上)・金額を必ず書面(FAX もしくは通知状)にてご通知下さい。
- ◆銀行振込の手数料は、お客様のご負担となります。ご通知がない場合、代金が振り込まれても未払い扱いとなり、後日再請求する可能性があります。ご協力のほど、よろしくお願いいたします。
- ◆特定の様式による請求書等をご希望の際は、注文書、指定請求用紙などを同封の上、郵便もしくはFAX、E-mail等にて上記の問い合わせ先にお申し込み下さい。なお、郵便によるご注文の場合、商品到着までに通常より日数がかかりますのでご了承下さい。

[法人名] 一般財団法人 ダム技術センター 図書販売

[郵便番号] 〒110-0008

[住所] 東京都台東区池之端2-9-7 池之端日殖ビル2F

[担当者] 図書販売担当

[電話] 03-5815-4161

[FAX] 03-5815-4162

[電子メール] books@jdec.or.jp